Local Life journal

ローカル・ライフ　ジャーナル　Vol.7
2018 Winter

in Nara Okuyamato

奈良・奥大和

Local Life Report

**奥大和エリアの暮らしに関する取り組みをレポート。
今回は下北山村、高取町、御所市、大淀町をご紹介します。**

from 下北山村 SHIMOKITA YAMAMURA
村で見つける「自分らしい人生」再出発の背中を押すプログラム。

▲「村に来たら元気になって帰れるようなプログラムにしたい」と森田さん（左）

うつ病の人への再発予防訓練や再就職支援を行う［リヴァ］に勤める森田さん。東京で開催された［むらコトアカデミー］に参加し、初めて下北山村の存在を知ったそう。村の豊かな自然やおおらかな人々と出会い、ここで実習プログラムを行うことを企画した。2017年に［リヴァ］は奈良県、下北山村と協定を結び、職場体験プログラム［イキカタサガシ］を実施。「ゆったり時間が流れるこの村で多様な生き方や価値観に触れ、自分らしい人生を探してほしい」と語ってくれた。

▼畑のドームをみんなで移動。楽しみながら共同作業を行う

株式会社リヴァ　所東京都豊島区高田3-7-9花輪ビル1F　☎03-5155-1250
HP　https://www.liva.co.jp

from 高取町 TAKATORI CHO
ママ達が心豊かに暮らせるように「あったらいいな」を作り出す。

◀「家庭第一がモットー。自分たちが心から楽しめることに、マイペースで取り組みたい」と福西さん（中央）

出産を機に退職した際、社会との繋がりを失い苦しい思いをしたことをきっかけに、SNS等で情報発信をはじめた福西さん。「自分自身も含め、育児や家事に悩むママたちが輝けるようにしたい」と2016年4月から［たかまち＊高取町ママたちのちから＊］の活動をスタートさせた。子育てやお掃除、お金の教育など育児や家事に関する講座を開催したり、子供も参加できるマルシェを開いたりと、想いに賛同してくれた仲間たちと精力的に活動の場を広げている。

たかまち
＊高取町ママたちのちから＊
教育・福祉・つながり・情報発信の4つのカテゴリーを軸にイベントやワークショップ等を企画、実施。文科省の［家庭教育支援チーム］にも認定。2018年には企業や他団体の活動をサポートするための新事業［garden］を立ち上げた。

HP　https://www.facebook.com/takamachi.takatori/

from 御所市 GOSE SHI
二人の友情が灯す商店街のあかり昭和の空気漂う居酒屋がオープン。

▶「こんなに大変なん知ってたらやってなかったわ」と笑う田仲さん（左）と辻本さん（右）

▲優しい常連さんとのカウンター越しの会話も楽しい

◀お店の名物になった「やみいちおでん」。大根、こんにゃくなど、じんわり出汁がしみ込んでいる

2018年5月、御所駅近くの末広商店街で［居酒屋 八三一（やみいち）］をオープンした田仲さんと辻本さん。45年来の友人だというお二人、定年後のチャレンジとして居酒屋を開くことを考えたそう。知人に相談したところ現在の物件を紹介され、昭和の空気が色濃く残る雰囲気に一目ぼれ。紆余曲折の末なんとかオープンにこぎつけた。「今でもお客さんに開店直後の失敗をからかわれます」とお二人。お店を開いたことが地域活性に繋がると嬉しい、と語ってくれた。

居酒屋　八三一
Tel.080-6180-0831
所御所市末広町336　営17時～23時（22時30分LO）　休火曜（その他臨時休業あり）
¥やみいちおでん1ネタ100円～

from 大淀町 OYODO CHO
心がホッとくつろぐ優しい味わい父と三姉妹が繋ぐ伝統のお茶作り。

吉野川の上流にある大淀町は江戸時代から続くお茶の一大生産地。［嘉兵衛本舗］を営む森本さん一家は170年前からこの地で茶葉の生産とお茶作りを行ってきた。13代にわたり受け継がれた独自の製法で作る［天日干し番茶］は、カフェインが少なく老若男女問わずに飲める優しい味わい。「干している時のお茶は水分が大敵。雨に濡れないよう片時も目が離せないんです」と父の正次さん。時に3人の娘たちと意見を戦わせながら、日々伝統のお茶作りに励んでいる。

▲父と三姉妹、それぞれの得意分野を活かしながら共同で茶舗を営んでいる

▲呼吸を合わせ、太陽の光をたっぷり浴びた茶葉を収穫
◀看板商品である［天日干し番茶］税込702円（200g）～

嘉兵衛本舗
Tel.0746-32-2147
所吉野郡大淀町中増1561
営9時～17時　休土日祝
HP　https://kaheehonpo.com

地域移住定住交流センター engawa **奥大和移住定住交流センター「engawa」**

地方と都会、若者と大人、移住者と奥大和地域の方々など、いろいろな場所とひとをつなぐ「engawa」は、Wi-Fi完備のコワーキングスペース、打ち合わせスペースとして、誰でも利用可能なオープンスペースだ。併設の相談窓口は、奥大和での生活や就業、空き家についてなど移住についてのタイムリーな情報が集まっている。

☎0744-48-3019　所橿原市常盤町605-5　時9時30分～18時　休土・日曜、祝祭、年末年始

発行・問合せ:
奥大和移住・定住連携協議会
（事務局：奈良県奥大和移住・交流推進室　☎ 0744-48-3016）
奥大和移住・定住連携協議会は、奈良県と奥大和地域19市町村で構成されています。

Local Life in Nara Okuyamato

本紙は、奥大和地域に暮らしている方々へ、移住者や地域での移住・定住に関する取り組みを紹介し、自らが住む地域の良さを実感していただくために発行しています。

◀山間と村の広い青空が表現された、心和ませるロゴが目印

左から

地域コーディネーター/インタープリター
早稲田　緑さん
川上村での地域おこし協力隊を経て現職。村の人たちが自ら地域おこしに取り組めるよう、枠組みや人の縁を繋いでサポートを行う。

地域観光ディレクター
村川　京さん
前職はホテル等宿泊業のマーケティング担当。その知見を活かし「情報ハブ」としての［BIYORI］の活用法を提案している。

オフィスプランナー
藤本　千幸さん
夫の赴任を機に下北山村へ移住。［BIYORI］の受付や管理のほか広報活動などを行う。よりよい施設の活用法を日々探求している。

BIYORI
コンセプトは「公と私のあいだ・サードプレイス」。村産の木材が心地よいシェアキッチン付コワーキングスペースは、新しい働き方や人との繋がりを生み出す「場」だ。
㊟吉野郡下北山村浦向24-1
☎07468-9-0014
HP http://shimokitayama-biyori.jp

N.I.PLANNING
メディアやイベントを通じて奈良県内の地域活性を行う。奈良のタウン情報誌［ぱーぷる］を発行。下北山村と［BIYORI］を活用した地域振興の協定を結ぶ。
㊟生駒市元町1-6-12　生駒セイセイビル6F　☎0743-71-7710
HP http://www.niplanning.jp

建材や家具には下北山村産の木材を使用。林業で栄えた村の資源が活きている

non-design
多様な情報を整理してのデザインを得意とし、造園設計や紙媒体など、プロダクトから空間まで総合的なデザインを行う。［キッチンBIYORI］にてシェフを担当することも。
㊟吉野郡下北山村浦向24-1
下北山BIYORI内
☎090-1464-5670

デザイナー
山岡　伸子さん
下北山村出身。東京在住時、関係人口創出イベント［むらコトアカデミー］に参加したことをきっかけに帰村。フリーランスのデザイナーとして活躍中。

▲静かで快適なオフィス。畳敷きの部屋を村の人の協力を得て改装したそう

若者たちが紡ぐ、村と人の新しいリレーション。

森に囲まれた下北山村から始まるワークライフ・レボリューション。

地方の過疎化、人口減が叫ばれて久しい。奈良県の東南端にある下北山村も例に漏れず、かつて3000人いた人口が約900人にまで減少している。そんな山奥の村に今、続々と若者たちが集まっているという。新しい何かが生まれそうな下北山村の「今」を紹介する。

生まれ変わった「場」で、新たな価値を創り出す。

遊休していた村の保育所をリニューアルし、2017年10月にオープンしたシェアオフィス&コワーキングスペース「BIYORI」。新たに生まれ変わった村の施設に今、村内外の若者たちが集い、様々な取り組みを行っている。月2回ほど行われる定例会では、観光や地域おこしのプロであるN.I.PLANNINGの村川さんと早稲田さんをブレーンに迎え、BIYORI管理人の藤本さんや村役場の若手職員たちが、イベント企画や新規ビジネスについて熱く語り合っている。村の食材や郷土料理を提供する1DAYシェフによる［キッチンBIYORI］や、「働く・暮らす・居場所」をテーマにした［Dialogue BIYORI］など、様々なイベントがこの会議から誕生した。2018年4月からは、デザイナーの山岡さんがシェアオフィスに入居し、新たに仲間に加わった。村の産業や資源にスポットを当て、新しい魅力を創造するBIYORIの今後の取り組みに注目だ。

下北山村長
南　正文さん
「移住を促す前に、まずは村を知ってもらう、好きになってもらう段階が必要」と南村長。林業、歴史や文化、農業や温泉など資源の多い村なので、若い視点から生まれる新たな動きや価値に期待しています、と語ってくれた。

豊かな山村で実践する人と自然が共にある生活。

世界各国を巡り、様々な国の自然と文化に触れる中で見つけた「人も自然も心地よい暮らし」。そんな理想の実現のため、小野さん夫妻が2018年夏にオープンしたのが一棟貸しの宿「山の家　晴々」だ。村に移住して2年目、地域おこし協力隊に所属しながら、村での生活基盤を確立したいと休日返上で汗を流す。太陽光発電による電力自給や、植物を使ったバイオジオフィルターで生活排水の浄化を目指すなど、自然に負荷をかけないコミュニティカフェ作りにも挑戦中だ。

渡部　みなみさん
地域おこし協力隊として下北山村で活動したのち、渡豪。2018年4月に帰村。醗酵の専門知識を生かし、地元食材で加工品作りをしたいと意気込んでいる。

▼毎週土曜には、下北山村産の野菜を直売する土曜朝市を開催

NPO 法人　サポートきなり
生活支援事業の他、地域おこし協力隊や移住定住のサポート、有償運送など幅広く事業を展開。6人の事務局メンバーに加え、20人の応援隊で村の生活を支える。
㊟吉野郡下北山村寺垣内1085
☎07468-6-0770
HP https://www.facebook.com/shimokitayama.supportkinari/

きめ細かなサポートで村の"こまりごと"を解決。

「ハチの巣駆除や草刈り、住宅の掃除などで毎日大忙しです」と笑うのは、［サポートきなり］で事務を行う渡部さん。役場では対処できない日々の雑事を有償で支援する［生活支援事業］に取り組んでいる。2014年には、移動手段が少ない村において高齢者の有償運送を行うためNPO法人格を取得。村人たちからの感謝の声を励みに多忙な日々を過ごしている。「今は人手が足りないけれど、今後は移住定住の促進にむけ、空き家の管理にも取り組んでいきたい」と語ってくれた。

▼敷地内にはビオトープがあり、宿のすぐ下を流れる川はどこまでも澄んでいる

小野　正晴さん　晴美さん
2年前に下北山村に移住した小野さん夫妻。二人とも地域おこし協力隊に所属し、正晴さんは小規模環境保全型の［自伐型林業］に従事し、晴美さんは［サポートきなり］にて生活支援業務を行っている。

最近の夢は「自分で切り出した木で小屋を建てカフェを開くこと」

山の家　晴々 -haru ∞ baru-
春は山桜、初夏はあじさい、秋は紅葉と周囲は四季の彩りに囲まれた、青い屋根が目印の一棟貸しの宿。村の野菜や食材を使ったBBQも準備してくれる。
㊟吉野郡下北山村寺垣内351
☎080-5989-4073
HP https://onogurashi.localinfo.jp

村の豊かな自然を描き、流れに身を任せて生きる。

2018年度［マチオモイ帖カレンダー］や［村制130周年記念カレンダー］にも採用された、村の情景を柔らかいタッチで表現したイラスト。手がけたのはイラストレーターの上村さん。夫がお寺を継いで住職になるため、2年前に家族で下北山村に移住した。近頃は、のどかな村時間のなか、集中して仕事に取り組むことが出来ているそう。「村での仕事も意外に多くて、充実した日々を過ごしています」と上村さん。肩ひじ張らず軽やかな心で、今日も美しいイラストを描いている。

▶5歳の娘さんも自然豊かな環境でのびのびと育っている

▼優しい筆遣いと淡い色がどこか郷愁を感じる上村さんの作品

旅とくらしの玉手箱　フルコト
上村さんをはじめ、編集・ライター・ディレクターからなるクリエイターユニット。奈良にまつわる仕事をしながら奈良市内で雑貨・書籍の店を営んでいる。
㊟奈良市東包永町61-2 2F
☎0742-26-3755
HP　http://www.furukoto.org/

イラストレーター
上村　恭子さん
2016年に奈良市から下北山村に移住。イラストレーターの仕事をメインに、奈良市内で仲間と共に「フルコト」を運営している。

スカイウッド株式会社
村の豊かな森で育った原木を、内装材や建具、家具などさまざまな製品に加工する村唯一の製材所。林業と加工業を繋ぐハブとして大切な機能を果たしている。
㊟吉野郡下北山村大字池峰227- 3
☎07468-5-2480
HP https://www.facebook.com/Skywoodlnc/

本田　昭彦さん
美紀子さん
埼玉出身の昭彦さん。田舎らしい仕事や生活がしたいと、美紀子さんの生まれ故郷である下北山村に移住してきたのは19年前。村の大きなダムで流木と出会い、独学で木工を始めたのが村の木材との関わりの始まりだ。

「村の木をより多くの人へ」新たな事業にチャレンジ。

「BIYORI」の家具作りを一手に引き受けた木工職人の本田さん。「木の素材感を感じられるものを作りたい」と村の木材で家具を作っていたが、2018年4月に［スカイウッド］を立ち上げ、製材業を開始した。「村では今まで原木のまま木材を出荷していました。村内で製材し製品化することで付加価値を高め、商品力を高めたいですね」と本田さん。リフォームやDIY需要が増える中、市場のニーズに応えるべく今後は商品数を増やしていきたい、と語ってくれた。

▲直径1mの大径木も巨大な機械であっという間に裁断　◀「畑違いの製材業なので、一から勉強しています」と本田さん夫妻